

# 協力の社会照らす

温暖化防止NPO協力

伏見 障害者施設に太陽光発電所

太陽光発電設備「おひさま発電所」が京都市伏見区の重度の知的障害者を支援する施設「イマジン」に完成し、14日に点灯式があった。屋根に横約1・3メートル、縦約1メートルの太陽光パネル48枚を取り付け、発電量は年間およそ8000キロワット時。温暖化防止のための自然エネルギー普及を目的に、認定NPO法人「きょうとグリーンファン」(下京区)が協力し、

ファンドの基金や府内外からの寄付金なども活用して約400万円の費用をまかした。イマジンは「地域に愛される施設にした」との思いから、環境に配慮した発電設備の設置を計画。施設の新築に合わせ、今年5月に工事を始めた。発電量は一般家庭が1年間で使用する約2〜3倍になるという。点灯式では、施設利用者らが色染め和紙などで手作りしたオブジェに太陽光で発電した電気をつけた。中西昌哉所長(55)は「人の助けを必要とする施設利用者の存在は、地域に支え合いの輪を広げる源になる。太陽光発電



点灯式で手作りのオブジェに明かりをつける施設利用者  
—伏見区の「イマジン」で

は、人々が協力しあう社会を願う施設の方にも合う」と話した。きょうとグリーンファンによるおひさま発電所の設置は、2001年から府内で始まりこれで21カ所目。

【国本ようこ】